

## EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

那須ファミリー

2010.12.1

No.77



NHKの「龍馬伝」が最終回を迎えました。龍馬を斬った男、今井信郎が後にキリスト者になったことは七十一号で紹介しました。彼は見廻組（旗本・御家人からなる反幕府勢力監視役）でした。一時期龍馬を殺したのは新撰組では？と言われたこともありました。（新撰組は町人・百姓身分を含む浪士たちの反幕府勢力監視役）その新撰組のメンバーに結城無二三（ゆうきむにぞう）がいました。（自称メンバーだと考える人も多いようです。）彼の伝記を新聞記者であった息子が書いています。（旧幕新撰組の結城無二三）それによると、無二三と今井信郎は親友でした。無二三は龍馬殺害の知らせを聞いたとき次のように言っていたそうです。「…これはなかなか腕の効いた奴が出てきたわいと話していたくらいだ。そしてその後それは今井がやったのだと聴いて今井ならなるほど無理はないと噂したものだ。実際今井の短剣は当時江戸でも有名なもので、やっと言って構えると、体が剣の中に隠れてしまうといわれたものだ。あの狭い座敷でとっさにあれだけの働きをするのは今井でなければできない業だ…」

後年、今井が無二三を訪ねてきた時、龍馬殺害のときのことを無二三と息子が聞きました。そのときすでに今井はキリスト者となっており、とても謙遜で誰にも維新当時のことは話していなかったそうです。無二三は無理やり聞きだしたようです。

## 聖書に出会った武士たち



さて、この無二三は新政府との戦いに加わり

ますが、最終的には敗北し、静岡で謹慎の身になります。その後、結婚しましたが時の新政府に失望し、人前から姿を消すことに決め、夫婦で山寺にこもり始めたのです。その時に彼のその後の人生を転換させる出来事が起こります。伝記からそのときの様子を抜き出すと：

「夜からおばあ様（無二三の妻のこと）が大熱を発して倒れておしまいになった。おじい様（無二三のこと）が：薬をせんじて飲ませたり、頭を冷やしてやったりしていると、次の日になっておじい様もまた大熱を発して倒れておしまいになった。…何も知らぬ赤児は枕もとへほうり出されたなり、乳を求めて火のつくような泣き立てるが誰も見てやるものがない。白刃の間を往来して死を見る帰るがごとくだったおじい様も、この泣き声ばかりには腹わたをえぐられて初めて神頼みということをなさった。それは最初山へお引き込みになる時、「楚辞」や「杜甫集解」などと一緒に、支那（中国語）訳の「聖書」を一冊持っておいになった。そしてそのうちの「詩篇」がおもしろいとおっしゃってよくお読みになっていた。訳は分からないが何でも耶和華（エホバ）という神があって、その神は全智全能であるということだけ知っていた

が、この時ふと思いついたのが耶和華（エホバ）だった。祈りさえすれば聴いてくれるということが書いてあったので、耶和華とはどういう神で、祈るにはどうして祈っていいのか知らなかったが、何でも構わず一心に祈った。どうか我々親子を助けてくださいと言つて祈った。すると不思議なことに、ぐんぐん昇りかけてきたおじい様の熱がだんだん下がってくる。赤児は泣きやんですやすや眠りだす、おばあ様まで正気に返って…。」

といった具合で、聖書の示す神が本物であると体験した彼らは、甲州に伝道にきていたカナダ人宣教師イビー氏のところに行くために山を下り、聖書を学ぶようになりました。しばらくして洗礼を受け、伝道者となります。当時はまだ「子どもの生き胆を喰う」「良からぬ魔法を使う」等、噂が絶えないキリスト者になるといえるのは簡単なことではなかったでしょう。一旦、世を捨てる覚悟をしたものが、一転して伝道者になったなんて本当に不思議です。

幕府方でありながら、意見をコロコロ変える徳川慶喜の態度にも不満を抱き、薩長藩士たちや一般大衆のいい加減さにも嫌気がさした彼にとつて聖書の真実は大きな慰めになったに違いありません。彼が属する教団内でもいろいろあったようです。結局、人間のすることには絶えず愚かさが付きまといま

「わたしたちは真実でなくても、彼（神・キリスト）は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」

七回目の白馬に行ってきました。白馬はホームスクールを始めてから毎年行っていきます。初めて集会の人に車を貸してもらって朝、二時半に家を出ました。そして、ホテルに行く途中に国宝の松本城に行きました。月見やぐらから見る景色がきれいでした。靴をぬいでから入ったら、床が木なので冷たかったです。また、階段は段差が大きくて登るのがしんどかったです。池には鯉が何匹も泳いでいました。自転車を借りて「旧開智学校」の見学もしました。

ト プ ラ ン エ  
今年、残念ながら雪は降っていませんでした。でも、ホテルの前には大きな山がいっぱいあって山登りが二回もできました。遠くからみた山はすぐ登れると思っていましたが、登ってみるとへとへとだったけどお話ししながら山を登りました。ホテルの温泉はすっごく気持ちよかったです。特に、露天風呂は外を見ながら入れるので気持ち良かったです。とっても仲のいい友だちと、フレンチトーストと紅茶をレストランで飲んでカフェ気分を楽しんでいました(笑)。すてきなティーツムでした。

エ ッ グ プ ラ ン エ  
チルミニのスタッフの皆さんが工作・ゲームなどを用意して下さい、とても楽しく遊べました。毎年好評の、「まくらファイト」も友だちと戦いました。運動会もしました。

11月 11日 12日 行事報告

- 十八〜二十日 白馬セミナー
- 二十三日 塗り絵・工作教室
- 「水彩絵の具で描こう③」
- 二十五日 合同公文教室
- オーストラリア人のゲストとの交流会
- 三十日 お作法教室(フランス刺繍・テーブルコーディネート)



松本城と白馬の会場



一番楽しかったのは障害物競走でした。縄跳びや玉をスプーンにのせて平均台を歩くゲームなどが楽しかったです。今年は私のチームが勝ちました。すっごく嬉しかったです。

最後の日にお母さんとお父さんの前で歌う歌もいっぱい練習しました。今回は「しょうらいときぼう」と「愛してる」を歌いました。友だちができたり、友だちとの再会もあったり本当に楽しかった三日間でした。

最近の勉強

去年、高卒認定試験を無事受け終わり、「二〇一〇年は大学に向けてしっかり勉強する！」と目標を立てていました。しかし、いざ高校二年になると、なかなか順調に進まないのです。そして、もう十二月になってしまいました。行きたい大学は決まっているものの、学力の方がついて来ず、今も悪戦苦闘中です。

私が特に嫌いなのは英語です。英語を聞くだけでゾクゾクするくらい、本当に嫌いです。でも、最近は少しずつ好きになってきました。(というのも、受けたい大学はすべて、英語が一番大事なので、やらざるを得ないのです。)

順調に進んでいるとは言えない状態ですが、私は勉強が好きです。できなくて落ち込むこともたくさんありますが、私には将来「看護師になる」という夢があるので、あきらめることができないのです。どれだけ私が頑張って勉強したとしても、自分の力で進めていくことはできません。どんなピンチの状態でも、神様に信頼しつつ、これからもあきらめずに勉強していきたいです。

関西のホームスクーラーの中で私は年上の方なので、まだまだ小さい子どもたちがたくさんいます。これからどんどん成長してくるホームスクーラーたちのよき模範となっていくことができたらいいな、と思っています。

編集後記

クリスマスシーズン到来。私の教会でもクリスマス関連の催しが目白押しです。一年で最も教会のことを自然に考えることができる時期です。一人でも多くの方が真の神に出会うことができますように。